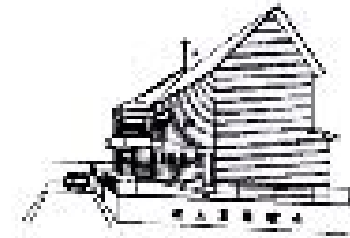


## < 聖夜の聖書から >

ロウソクの灯りの元、讃美と聖書の朗読を通して、皆が素晴らしい礼拝を捧げました。嘆き苦しみ荒廃する社会にもたらされた救いの全てが、この個所に中心の出来事として語られていたのを思い出します。聖書には降誕の出来事が2か所、記録されています。“マタイによる福音書”とこの世メッセージを通してともに聞いた“ルカによる福音書”です。マタイのほうは、王ヘロデや、凄まじい殺戮が行われたことや、“ヘロデ王はこのことを聞いて不安を感じた。エルサレムの人々もみな、同様であった(マタイ2:3)”とありますように、民の多くも“救い主の誕生を疑った(というより信用しなかった)”とあり、一つの出来事がそこにあった事を記録しています。しかしルカの記した記録は、静かなものでした。知らされた人々は身分も高くない羊飼いたちでした。しかし彼らは、“救い主がおいでになること、今こそメシヤを必要としていること”すなわち、イエスを受け入れる資格を持っていました(マタイ3:3)、その道を主に向かって真直ぐにすることができた人たちでした。また彼らは、自分たちが飼っている羊の運命も知っていました。沢山の羊が、人の必要よりも、人によって決められた(ゆがめられた)律法によって、捧げものとして、神殿で売られることになっていたのです。彼らに天より与えられた言葉は完全なものでした、“いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように(ルカ2:14)”がその言葉です。“高きには栄光がある、その様に”という意味であることを忘れないようにしましょう。天の軍勢に恐れていた羊飼いたちも、馬屋の幼子に出会い、主を讃美するものに変えられました。この“変えられる”ということが今年のテーマでしたが、今年は“わかった”ということに中心をおいてみ言葉を頂きました。赤ちゃんを見て“その通りだったのでわかった”のです。そこには、勿論肩書などありませんでした。しかしわかったのです。東方の博士たちも、わかりました。ルカ福音書のこの後に、シメオンは2:30で“わたしの目が今あなたの救を見たのですから”と言って“経験しました”。私たちは多くの場合、確かさと証拠を求め、科学的精神を最重要にします。神から与えられた理性の素晴らしさがありますが、また反面、実に沢山のことをわかって信用しているのです。救いの確かさもそうです。洗礼を受けた時、何が分かったのかを新鮮に思いだしてみたいものです。“ここが救いの出発点”だということが分かったのです。羊飼いたちは、そんなに、預言書をよく読んでいた学者のような存在ではなかったはず。ただ救い主に応える力があつたのです。

# 週報

2009年 12月 27日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	( 聖餐式 第一日曜日 )	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042